

冬季及び春季生物調査結果の概要

1. 調査概要

(1) 調査日及び調査内容

- 冬季調査 平成 29 年 1 月 23 日 (鳥類)
 春季調査 平成 29 年 5 月 26 日 (鳥類、希少植物)
 平成 29 年 5 月 29 日 (昆虫類)

(2) 調査方法

●鳥類調査

基地跡地内を徒歩で移動しながら目視で確認または鳴き声が確認された種を記録しました。

●昆虫調査

平成 22 年度調査で貴重な種が確認された場所において目視、捕虫網で採取された種を記録しました。なお、移動中に確認された種も記録しています。

●希少植物 (サイハイラン、マツバラ)

平成 22 年度調査において生育が確認された地点において、個体数を確認しました。



主な調査地点 (昆虫類)

2. 調査結果（速報）

（1）鳥類

①冬季調査

- ・4目13科21種が確認されました。
- ・秋季調査で確認された種のほかに、樹林性のノスリ、ウソ、シメ、草地のような開けた空間と樹林の組合せを好むアトリ、樹林の林床を好むトラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキなどが確認されるなど、樹林性、樹林に関連した環境（樹林の林床等）を好む種が多く確認されました。
- ・環境省レッドリストおよび埼玉県レッドデータブックに該当する種として、次の2種が確認されました。
 - ノスリ(タカ目タカ科)【埼玉県RDB 絶滅危惧Ⅱ類(VU)】
本調査地内には猛禽類のものと考えられる古巣は確認されていないことから、荒川の河川敷付近で生息する個体が飛来した可能性が高いと考えられます。
 - ルリビタキ(スズメ目ヒタキ科)【埼玉県RDB準絶滅危惧(NT2)】
冬鳥であり、過年度にも冬季に本種が確認されているため、本調査地で越冬している可能性が高いと考えられます。

②春季調査

- ・3目11科12種が確認されました。
- ・コゲラ、ヒヨドリ、メジロ等、樹林のある環境でみられる種や、シジュウカラ、カワラヒワ、ムクドリ等、樹林や草地のある環境でみられる種が確認されました。
- ・埼玉県レッドデータブックに該当する種として、次の1種が確認されました。
 - ホオジロ【埼玉県RDB 準絶滅危惧(NT2)】
平成22年度調査においても春季に本種が確認されています。林縁の藪地や植木畑周辺等に営巣することが知られており、本調査地は林縁に藪地が存在していることから、繁殖の可能性があると考えられます。

（2）昆虫類

- ・春季調査において、9目54科118種が確認されました。
- ・環境省レッドリストに記載されている種及び埼玉県レッドデータブックに該当する種は確認されませんでした。
- ・注目すべき種として、イチモンジチョウ（タテハチョウ科）、ヤブキリ（キリギリス科）など林縁に生息する昆虫類、市内で生息記録の乏しいコオロギの一種であるキアシヒバリモドキ（ヒバリモドキ科）、県内での採集例のあまり多くないバッタの一種であるショウリョウバッタモドキ(バッタ科)の幼虫等が確認されました。



ショウリョウバッタモドキ（幼虫）

(3) 希少植物

①サイハイラン【埼玉県 RDB 準絶滅危惧 (NT)】

- ・ 12 地点で 149 株が確認されました。
- ・ 調査地内では、多数の株がまとまって生育し、前回調査で確認されなかった地点からも出現していました。人の手がほぼ入らず、サイハイランの生育に適した環境が維持されていたため、株数が増加したと考えられます。



サイハイラン

②マツバラン【環境省 RL 準絶滅危惧 (NT)、埼玉県 RDB 絶滅危惧 I A 類 (CR)】

- ・ 3 地点で 13 株が確認されました。
- ・ 斜上した樹幹や、木の根元に生育していました。
- ・ 埼玉県レッドデータブックでは、本調査地がある荒川西台地にマツバランが分布しているとされているが、自然分布ではない逸出由来の可能性があると記載されており、本調査地内の確認株も逸出由来の可能性が考えられます。



マツバラン

3. 今後の予定

調査結果の詳細については現在、7月調査（昆虫類）分も含め取りまとめを行っています。
また、9月に昆虫類の調査を実施する予定です。